

圏外のアンテナ

[なんじゃもんじゃ]の巻

連休の半ば、デレ〜ッとソファに沈み込んでニュースを見ていると、調布市にある深大寺の「なんじゃもんじゃ」の木の花が満開になり、見物客で賑わっているという話題であった。親木は神宮外苑にあるとか。

ふーんと、眺めていたわたしは、ちょっと待てよと跳ね起きた。20年程前、千駄ヶ谷に仕事場があった頃、「なんじゃもんじゃ」の木の前を自転車でよく通ったことを思い出したのだ。確か白い花だったが、仕事でいっぱいだった当時のわたしに、その花を眺める心の余裕はなく、花の形の記憶すら曖昧…。

子木がそれほどの人気なら、親木の方はどれくらいだろう？と気になって、連休明け、仕事の帰りに神宮外苑へ向かう。照りつける日差しの中、信濃町から数分ほどの街路樹の中に細々とその木は立っていた。

わたしの身長よりは高いが、添え木で守られた弱々しい佇まいは、記憶の中の大木の姿とはまるで別物。枝の先に咲いている花も、チョコチョコ。これでは誰も名前を尋ねたりはしないだろう。

横の説明板を見ると、この木は、3年前に2代目が枯れた後、2代目の実生から育てられ、昨年ここに植えられた3代目なのだという。そうだったのか。あの頃の大木は枯れてしまったのか。

それにしても、おかしな名前である。その由来で有名なのは、水戸黄門が、将軍にこの木の名を「なんじゃ？」と尋ねられ、返事に窮して「もんじゃ！」と答えたという説。

他にも、神事に利用する巨木を直接呼ぶことがはばかれたため、あえてこのような呼び方をしたという民俗学的な見解まで、諸説あるようだ。

いずれ3代目のこの「なんじゃもんじゃ」の木も、満開の花を咲かせて、深大寺の木のように、大勢の花見客を集めるのだろうか。

皆がその木の下に立ち止まって、「こりゃなんじゃ？」「いいもんじゃ！」と愉快地語り合いたくなるような、大木に育ってくれるといいのだけれど…。

=2017年5月12日掲載=



神宮外苑に弱々しく立つ、ひとつばたご。通称は、3代目・なんじゃもんじゃの木